



キャンプファイヤー

梵珠少年自然の家

1 活動のねらい

- ・火を囲みながら、自分を見つめ直すとともに、仲間との親睦を深めることができます。
 - ・自然の中で「火の神秘」を感じながら、自然への畏敬の念を深めることができます。
 - ・仲間とともに、歌・踊り・スタンツなどに取り組み、協力や友愛の精神を高めることができます。
- 【教科への対応】 小学校：学級活動など 中学校：学級活動など
- 【組合せ可能な活動プログラム】 ぐるぐる火起こしなど

2 活動の概要

自然の中で火を囲み、儀式、歌、踊り等を行います。プログラムは団体の実情に応じて様々にアレンジを加えることができます。ゲームやスタンツなど各グループで考えた出し物を組み込むことにより、仲間との協力や親睦を深める活動です。



- (1) 人数 160人以内
- (2) 対象 小学校5年生～中学生・高校生
- (3) 期間 4月下旬～10月中旬
- (4) 時間 1.5時間
- (5) 場所 営火場
- (6) 経費 1,250円／灯油10ℓまで（60名以下の団体が目安） <トーチサービスの様子>
2,500円／灯油20ℓまで（60名以上の団体が目安）
- (7) 指導 実施方法等について、自然の家職員が説明（直接または間接指導）を行う。

3 準備物

団 体	救急薬品、スタンツやゲームに使用するもの
個 人	軍手、使い古しの雑巾かフェイスタオル 夜の野外活動にふさわしい服装（必要に応じて、虫除けスプレー等）
自然の家	トーチ棒、針金、薪、火かき棒、トーチ用灯油、着火剤、金属製バケツ、火ばさみ ワイヤレスマイク、CD プレイヤー、ライター、消火用ホース、衣装（女神、付き人） バケツ水、無線機（1台）

4 引率者の役割分担

役割名	内 容
代表責任者	1名。活動全体の総括、指揮、連絡にあたる。
用具担当者	1～2名。自然の家から貸し出す用具類の管理を行う。
活動支援者	数名。子どもたちの活動を支援し、安全と事故防止に努め、緊急時に対応する。

※実施上の役割（例）

役割名	内 容	備 考
営火長	・団体を代表する人で「火の話」を担当する。	（火の神でも可）
司会者 （エールマ スター）	・プログラム全体の進行を行う。 ・2部の「親睦」では、雰囲気盛り上げるようスタンツなどをうまく進行させる。	・1～2名 ・明るくユーモラスな表現の工夫
ファイヤー キーパー	・薪がきれいに燃えるよう管理する。 ・消火確認と燃えかすの片づけを行う。	・2～4名 ・静かにゆっくり動く
女神 ・付き人	・親火をはこぶ。 ・付き人を従えて入場。	・女神・付き人1～3名 ・歩く速さ、姿勢に注意
ソングリー ダー	・すべての歌をリードする。	・3～6名 ・司会者と打ち合わせ

5 活動の流れ（例）

	内 容
説 明	団体の指導者が、児童・生徒等に対して、プログラムの流れや留意点の説明、安全指導等を行う。
活 動	〈第1部〉儀式の火（約25分）～おごそかに（静）～ - 集合・移動 ・参加者はトーチを持ってつどいの広場に集合し、営火場へ移動する。 - 入場・整列 ・営火床を左回り1周し、イスの後ろへトーチを置く。 - はじめの歌 ・「遠き山に日は落ちて」を歌う。（歌→ハミング） - 女神入場 ・歌の途中で聖火を持って入場し、所定の位置（営火長の前）につく。 - 営火長のことば ・聖火を受け取り火の話をする。 - 点火 ・営火長は、薪に点火する。 - 炎の歌 ・「燃えろよ燃えろ」を歌う。 ※歌の終了とともに司会者は第1部の終了と第2部の始まりを告げる。 〈第2部〉親睦の火（約50分）～楽しく元よく（動）～ - 全員手拍子でうたう。 - 班ごとに演技する。 - 途中に全員の歌や踊りを入れ、雰囲気盛り上げる。 - 最後は静かな歌で心をしずめる。 〈第3部〉儀式の火（約15分）～おごそかに（静）～ - おわりの歌 ・女神は付き人とともに衣装を整え、親火をもって所定の場所に立つ。 ・「一日の終わり」を歌う。（2番の歌詞→ハミング（静かな雰囲気）） - 児童・生徒の話 ・児童生徒の感想（自分の場所から5歩前に出て） - 営火長のことば ・親火を受け取り火の話をする。 - 別れの歌 ・「今日の日にはさようなら」など歌う。（思いを込めて） - トーチサービス ・全員トーチを持って起立し、営火長から班長へ分火、班長から班員へ分火 - 退 場 ・営火長、女神、付き人、各班の順で退場し、トーチを保持したまま自然の家まで移動し消火する。 ※ 営火場の座席 管 理 棟
終了後	あとしまつ - 消火し確認する。 ・用具の片づけ ・自然の家職員へ無線で連絡し、確認を受ける。 - 借用物品を返却（無線機は事務室へ）

6 実施上の留意点

- ・事前に「薪を組む」「トーチ棒作り」の時間が必要となる。
- ・準備及び後始末は、自然の家職員の指示によって利用団体が行う。
- ・火のついたトーチ棒を持って施設に戻る際は、引率指導者の一人が最後尾に付き、路上に落ちた燃えかすを回収する。（金属製バケツ、火ばさみを使用）
- ・翌朝は、燃えかすを土のう袋へ入れ、所定の場所へ片づける。また、トーチを解体し、棒は所定の場所へ、布と針金は分別して捨てるとともに消火用シンクの水抜きと清掃も行う。

7 安全に実施するためのポイント

- ・安全上、大人数の団体が営火場でトーチサービスを行う場合は分火のタイミング等について工夫が必要となる。
- ・トーチを持って歩くとき、各人の前後の間を2m以上あけ、やけどに気をつける。
- ・余った灯油を、火の中に投入しない。
- ・やけど防止用のバケツ水（ホース水）を用意する。
- ・火を使う活動では、化学繊維やナイロン製品を着用している場合、火の粉により穴が開く可能性があるため、着衣を検討する必要がある。

8 資料へのリンク

※キャンプファイヤーの詳しい資料は、当所ホームページのトップページ「活動プログラム一覧」バナーから入り、「野外活動プログラム」「キャンプファイヤー」の項からリンクがある。